

会場アクセス:白石島 / 笠岡市住吉港、伏越港



電車でお越しの方:在来線でJR笠岡駅(JR岡山駅から約40分)→住吉港、伏越港から船でアクセスできます。

三洋汽船定期船(笠岡住吉港) 船賃:笠岡~白石島 670円 (高速船1,170円)

住吉港→白石島	下り	高速船	普通船	高速船	普通船	高速船	普通船	高速船	普通船	白石島→住吉港	上り	普通船	高速船	普通船	高速船	普通船	高速船	普通船	高速船
	住吉港	7:25	8:10	9:10	11:20	12:30	14:25	16:30	17:47		白石島	7:05	8:37	9:56	12:02	13:47	16:00	17:05	17:50
	白石島	7:47	8:45	9:32	11:55	12:52	15:00	16:52	18:25		住吉港	7:37	8:59	10:28	12:24	14:18	16:25	17:37	18:12

笠岡フェリー定期船(笠岡伏越港) 船賃:白石フェリー / (540円) 金風呂丸 / (550円)

伏越港→白石島	下り	金風呂丸	白石フェリー	金風呂丸	白石フェリー	金風呂丸	白石フェリー	白石フェリー	白石島→伏越港	上り	白石フェリー	金風呂丸	白石フェリー	金風呂丸	白石フェリー	金風呂丸	白石フェリー
	伏越港	7:15	9:00	9:25	11:00	13:00	14:40	16:50		白石島	7:55	8:39	10:00	11:40	13:35	14:40	16:00
	白石島	8:39	9:45	10:08	11:45	13:43	15:25	17:35		伏越港	8:40	9:19	10:45	12:20	14:20	15:20	16:45

企画:NPO法人ハートアートのリンク
 お問い合わせ:NPO法人ハートアートのリンク Tel:090-5698-4933
 700-0982 岡山市北区中島田町2-5-22-102
<http://heartartlink.org> NPO法人ハートアートのリンクHP↓

滞在制作/作品展示アーティスト
 「色と音のライブラリー」

私たちが滞在制作をします!



-しまの音-

江南 泰佐

-しまの色-

羽山 まり子

-しまの音-

岩本 象一

令和4年度おかやまAIR地域協働事業

笠岡諸島 Art Bridge on Kasago Islands 2022 アートブリッジ

作品展示期間:

2022.9.23(金)-10.2(日) 白石島 松浦邸 (定期船港前)

9時30分~16時 | 観覧無料 |

常設展示: 岡山県笠岡市白石島松浦邸
 イベント: ワークショップ | 9/23, 9/24: 松浦邸 |
 アーティストトーク | 9/25: 松浦邸 |
 ライブパフォーマンス | 10/1: 笠岡住吉港、松浦邸 |

色と音のライブラリー

アーティストによる滞在制作とパフォーマンス

風光明媚な笠岡諸島。少子高齢化などの課題がある一方で、島ごとに脈々と続く伝統があります。人間は本来、目に見える世界だけに生きているのではなく、自然や先祖に守られて生きている。島はそれを身体で感じることができる空間です。宮本常一が「忘れられた日本人」のなかで取り上げていた、島の暮らし、循環型社会を継続してきた島は、創造性を生むための場所としての機能も、今後大いに期待されています。今年、島にアーティストが滞在し、白石島の人々との関わりの中で制作しています。島の記憶や自生する植物の色や日常にある自然の形が、アートの視座で呼び覚まされ、新たな出会いをつくっていきます。そう、島は、近未来社会!

主催:NPO法人ハートアートのリンク、岡山県
 後援:笠岡市、一般社団法人笠岡市観光協会

新型コロナウイルス感染拡大防止への御協力についてのお願い

御来場の際は、マスクの着用をお願いします。会場に消毒液を御用意しますので、手指の消毒をお願いします。37.5度以上の発熱がある方や体調に不安がある方は、入場をお控えください。混雑時は入場を制限させていただく場合があります。また、新型コロナウイルス感染拡大の状況次第では、内容の変更、中止の場合がありますのでご了承ください。最新情報はハートアートのリンクのホームページをご覧ください。

滞在制作/作品展示アーティスト「色と音のライブラリー」

常設展示：岡山県笠岡市白石島松浦邸 9月23日(金)～10月2日(日)9:30～16:00 観覧無料／出入自由

松浦邸では、滞在制作アーティスト(羽山 まり子、岩本 象一、江南 泰佐)の作品を展示します。「色と音のライブラリー」と題した展示では、島民と一緒に島の植物などを染色し、その素材を使った制作物や、ラジオにのせた、島民の声などをアーカイブした音源をお披露目します。



羽山 まり子 / HAYAMA Mariko

美術家。繊維を媒介として「場」と「記憶」を繋ぐ活動をしている。「歴史は個の声の集積である」という視点で、関わったコミュニティの人々から個人的な「記憶」を集め、その集積として繊維作品をつくる。コミュニティにおいて変化し続ける「生きた」風土を可視化すると同時に、社会の深層心理の分有を試みている。島で培われた言葉と島に生息する植物染料を集め「生きた」風土を浮かび上がらせる。ワークショップ形式の草木染で島の色を採取しファイリングしていく。「集める」プロセスを通し関係性を構築し、ライブラリー作りに参加、情報をシェア活用できる「みんなの図書館」を目指す。



岩本 象一 / IWAMOTO Shouichi

音楽家 神戸出身
インドネシア留学を経て2010年より岡山在住。Okayama Javanese Gamelan Class主宰。国内外でパフォーマンスやワークショップを行う一方、様々な音作品や映像作品を発表するなど形式にとらわれない創作活動をしている。本イベントでは、島民や島を訪れた人に話を聴きながら、個々人の物語を集積し「ラジオ番組」をつかっていく。島に残る歌や伝説、これからの希望など数々ずつの聞き取りで作られた数本の番組を配信する。



江南 泰佐 / ENAMI Taisuke

音楽家。
民放ラジオ番組(KBS京都ラジオ)のDJを経て、現在は複数の地域コミュニティにおける音声メディアコンテンツの制作に参加。メディア活動と並行しながら音楽活動を展開。2017年には日用品を大人数で即興的に演奏する大所帯非楽器アンサンブルPOLYIを結成。近年は音の展示=サウンドインスタレーション作品を制作、発表している。大阪音楽大学非常勤講師。2020年春から岡山県勝山在住。

期間中の作家滞在スケジュール 羽山 まり子(9/23、24、25、10/1、2) 滞在作家は松浦邸に在りますので、お気軽に話しかけてください。
岩本 象一 (9/25、10/1)
江南 泰佐 (9/24、25、10/1、2)

イベントスケジュール

常設展示	: 松浦邸 9月23日(金)～10月2日(日)	展示: 色と音のライブラリー 9:30～16:00	観覧無料／出入自由
ワークショップ	: 松浦邸 9月23日(金) 9月24日(土)	桑の実で染めるワークショップ 10:00～12:00	両日とも定員8人 先着順／無料
アーティストトーク	: 松浦邸 9月25日(日)	トーク「島の色と島の音」 13:00～15:00	無料／出入自由
パフォーマンス	: 笠岡住吉港、松浦邸 10月1日(土)	獅子舞ライブパフォーマンス 14:00～14:15 笠岡住吉港 15:00～15:15 白石島／松浦邸	観覧無料

島を度々訪れ、滞在制作を重ねた様子



島民とつくる「獅子舞」

「張り子」の技法で獅子頭の土台を制作し、島の人々が着色し、完成させる獅子舞。10月1日は、ダンサーによる獅子の舞を披露!

ライブパフォーマンス：笠岡住吉港 白石島/松浦邸 10月1日(土)14:00～14:15 観覧無料 10月1日(土)15:00～15:15

アーティスト(山端篤史)が制作した張り子の獅子頭を島民が着色。胴体部分の「ゆたん」は、平川めぐみ(美術家)が、島民の物語がある布を持ち寄り仕上げます。獅子舞を舞うのは、カタチサトと三木優希(コンテンポラリーダンサー)、音楽は岩本象一で「新しい獅子舞」を披露します。



山端 篤史 / YAMABERI Atsushi

造形作家。香川県生まれ。2009第1回香川県文化芸術新人賞受賞。2010、2013瀬戸内国際芸術祭参加。様々な素材を使用し多岐にわたる表現を行う。内容も造形物も、その時々でのインスピレーションを核として、作品を媒介物と考え、コミュニケーションを図ることを主旨に制作を行っている。



カタチサト / KATATA Chisato

ダンサー・演出家・ファシリテーター。踊りだすと何でもない空間をたちまち異世界に変える存在感は、国内・海外でも高い評価を得た。主宰する Dance-BonBonでは、風景まるごとアートパフォーマンスになるような SHOW やWS、訪れた人が自然に起こした行動が作品につながっていく舞台公演など、類を見ない劇的空間を創りだす。http://dancebonbon.com



三木 優希 / MIKI Yuki

野外演劇、現代サーカスの実験劇場、劇団への振付、音楽LIVEパフォーマンスなど幅広く関わる。またEclogionとして、重要文化財の米蔵にて作品を上演、生演奏での舞台やパフォーマンスなどを企画演出している。ダンサーとして星屑ロケットズにて各地の公演に参加。現在芸術士®として活動中。企業との共同開発で、体操教室のプログラムを担当している。高松ワークショップLab.では、WSを開発したり保育士向けや老若男女問わず参加できる、市民還元型のWSを行っている。

白石島

白い花崗岩が点在する白石島は、江戸時代には沿岸航路の中継地として栄え、漁業や砕石、綿栽培も盛んで各家には機織り機がありました。元禄4年(1691)、長崎オランダ商館のドイツ人医師ケンベルは、江戸へ行く途中に白石島を訪れ「白石港は比類無きほどの投錨地(船の停泊地)。この小さき島には北に向かって開いている細長い港があり、その近くに開墾された心地よい谷がこの港特有の地形をなしている。」と、白石港が潮まち、風まちの良港であったと記しています。江戸時代には、備後福山藩水野家の領地であり、開龍寺はその祈願寺としても栄えました。最奥には、「大師堂」があり多くの巡拝者で賑わってきました。鎖岩に続く高台には、タイのワットパブナム寺院との交流により建立された「仏舍利塔」があります。



松浦邸 滞在制作展示会場

泊まりやの屋号が残る小見山庄屋の嘉惣次郎として、島を訪れる賓客の宿舎としても利用されました。「伊能忠敬測量日記」によると、文化3年正月23日(1806年3月12日)北木島の測量を途中で、1番隊と3番隊が午後4時すぎに白石島に到着。2番隊は大飛島・小飛島の測量をすませ、夕方白石島に到着したと。庄屋の嘉惣次郎に宿をとり、たいそう立派な家だったと記しています。邸横にある巨石には不動明王像が刻まれており、「波切不動明王」と呼ばれています。

